

大阪労連女性部ニュース NO.11

2011年8月5日

発行 〒530-0034 大阪市北区錦町2-1 国労会館 大阪労連女性部

TEL 06-6353-6421 FAX 06-6353-6420



毎年前進！マスコミ要請行動

3月の「菜の花行動」で延期になっていたマスコミ要請を、7月15日(金)・19日(火)二日にわけて14名の参加で行いました。

女性部の「菜の花行動」の一環として毎年続けています。今年は何じめて読売テレビ報道部との懇談ができました。それも読売テレビ労組さんから助言をいただき実現しました。要請先のマスコミ各社・労組とも快く要請に応じてもらい、懇談時間も長く意見交換できるようになりました。

また、読売新聞社との懇談で「7・27最賃座り込み行動をやるのでぜひ取材してほしい」と話したところ、7・27最賃座り込み行動に取材に来てくれました。翌日には、写真付きで記事が掲載されており、これもまた初めてのことでした。

これもひとえに、毎年の行動の積み重ねにほかなりません。“継続は力なり”来年は、もっとマスコミの本音が聞けるよう引き続き取り組んでいきたいです。



(読売テレビ労組との懇談)

近畿ブロック女性部役員交流会 IN 大阪

8月3日(水)国労会館にて、第23回近ブロ女性部役員交流会を9名の参加で行いました。交流会のテーマは「組織拡大」で各地方から組織拡大のリーフやビラなどを持ち寄り取り組みについて交流をしました。

☆ 和教組の取り組みでは、『未来の教師塾』を行っており、そこで学んだ先生はほとんど組合に加入してくれる。

- ☆ 京都自治労連では毎年、新入職員向けに『就職おめでとうございます』と題した組合紹介パンフを作成し、先輩からのメッセージなどを載せて組合加入を呼びかけています。
 - ☆ 大阪福保労からもクリアファイルを活用したり、加入ハガキ付のかわいい権利リーフを作成して組合加入に取り組んでいます。
 - ☆ 若い女性の先生が、組合加入の呼びかけを積極的にがんばっている。
 - ☆ 自治体のなかにも非常勤職員が増えている。非常勤を対象としたパンフや様々なリーフなどを作成して組織拡大に役立てている。組合加入の声をかけられるのを待っている。
- など、各組織で女性ならではの工夫をして組織拡大取り組みを報告がありました。





日本母親大会 IN 広島へ参加！

7月30～31日(土日)、『生命(いのち)』のスローガンを掲げ子どもの明るい未来を願い母親・女性の力を結集して第57回母親大会は母親運動の原点の地、広島で開催され、全国から8500人、東北3県からも250人また開催地が広島ということもあり250人いじょうの子どもも参加しました。

現地の歓迎挨拶では、広島・長崎・ビキニ島の原爆の被害者から今や原発という放射能で国民を被爆させた加害国へとなってしまったと挨拶されました。

記念講演では、湯浅 誠さんが『貧困なくし、人間らしく生きられる社会をつくる』と題して話をされました。

95年からのホームレス支援活動を始めたきっかけや自身の体験をとおして、運動の基本は「作って、要求すること」と話されました。現在でも生活が苦しい人たちは減るところか増え続けている。

今、高校中退の学生たちが増えている。子どもの時にいろんな理由(家庭環境・貧困)で教育現場から切り離され、それからずっと社会との交わりがなく生活してきた大人が相談や支援を求めてやってくる。

就職が困難になって生まれた『就活』、結婚が困難になって生まれた『婚活』という言葉、このままでいくと生きるのが困難という意味で生きるための活動『生活』ということになる。

また、13年間、毎年3万人以上の自殺者をだしている。この数字は異常なんです。それを出し続けている日本という国も異常なんです。交通事故死の6倍以上、殺人死より43倍以上で日本という国は他人に殺されるより自分で死ぬ人が多い。毎年、ニュースで聞くことに慣れないで下さい。あたりまえになっていくのが怖いんです。

だから、多くの人たちが少しでも生活が仕事が環境がよくなってほしいと思ったら、『何かしよう』と運動を作っ形にし、自分たちの要求を求めていくことが大事、また求めていくことを日常的にできる社会にならなければ今の社会はもたないと話されました。



2日目は、シンポジウム「核兵器廃絶のために」に参加しました。

被爆者を体験された方からは「8月6日の午前8:15は、一生忘れることができない。毎年、その日・その時刻になると悲しみと怒りで涙とともにあの日へ戻る。人間が核兵器を作ったならば、人間がなくせるはず」と訴えました。(池田精子さん)

また、今の世界の制度は一部の人喜び、多くの人苦しむ制度です。誰が生き残れるか、一番上に立てるかに取り込まれている。どの国も軍事予算を増やし、戦争準備を整えている。核兵器は抑制を失っている。いつどこで核兵器が使われてもおかしくない。

しかし、国民のなかでは、世界中で核廃絶を求める声が増えている。広島・長崎だけでなく戦争は反対という気持ちを持っている人たちが立ち上がっていかなければならない。アメリカ・ロシアが賛成しなくても核軍縮の動きは進んでいる。平和リーダーに日本が立ち上がれば、多くの国が核兵器廃絶へ賛成する用意は出来ている。日本はアメリカが怖いからリーダーにならない。でもアメリカを怖いという日本政府を動かせるのは日本国民である。国民の世論が一番に怖いだから、ぜひ日本の国民から大きな声を出して欲しい。日本を平和リーダーに立ち上がらせて核兵器廃絶の流れにを作って欲しい。希望は日本国民が立ち上がることです。(スティーブン・リーバーさん)